パーの仕事を代行した、あるいは、現場からの報告や提案により従業員が助けられた、などさまざまな理由から候補となる。クリーンキーパーの働きぶりについては、日ごろ、本社スタッフも共有しており、候補者選びには本社スタッフ全員の意思が反映される。

一方、「お客さまからの声がない（クレームがない）」、「休むことも、遅刻をしたこともない」など、ルールを守って地道に働いているクリーンキーパーにも目を配り、表彰の対象とする。さらに、長年の働きぶりも勘案し、最優秀賞をはじめとする賞を決めていく。

「この賞に恥じないように」

今回、2015年に「最優秀クリーンキーパー賞」を受賞し、2017年には「現場の母で賞」を受賞した本田初枝（はつえ）さん（73歳）にお話をうかがった。

本田さんは、製造業の会社を60歳で定年退職後、ベルのクリーンキーパーになって12年。運送会社のビル内の清掃を担当し、週6日、早朝約3時間半の業務を続けている。現場は24時間稼働しているため、作業に差し支えのないように配慮しながら、本田さんは毎日、事務室や応接室、洗面所などを清掃する。

「仕事は、いい運動になっています。12年間で休んだのは1回か2回。仕事をしているから健康でいられるのだと思います。運送会社の方々とは毎日あいさつを交わし、いつのころからか『お母さん』と呼んでもらえるようになりました」と本田さんは笑顔で話す。

2015年度最優秀クリーンキーパーに輝いた本田初枝さん

最優秀クリーンキーパー賞の受賞は、「驚きました。表彰式で奥社長から、みなさんで考えてくださったメッセージの書かれた楯をいただいて、その後、息子が花を持って現れたことにも、また驚きました。とてもうれしく、賞に恥じないようにがんばろう、これからも責任を持ってやっていこう、という気持ちと力が湧いてきました。本社スタッフの方がクリーンキーパーの仕事をちゃんとみてくださっていることをありがたく感じています。私たちががんばっていることに対して、毎年いろいろな賞をつくって評価してくれます。一生懸命やっていると報われるのです」と朗らかに話してくれた。

同社のビルメン事業部でクリーンキーパーの管理をする加藤矢志（ただし）リーダーは「クリーンキーパーの鑑（かがみ）です」と本田さんをたたえ、最優秀賞授与について、「現場の仕事だけでなく、常にお客さまの立場に立ち、ときには親心で本社スタッフに厳しい言葉をかけていただくなど、多岐にわたる貢献が理由です」と振り返る。また、今年本田さんが受賞した「現場の母で賞」は、「本田さんを慕うクリーンキーパーさんが多く、どこにいてもお母さんのような存在だからです」と加藤リーダーは明かした。

2015年度の表彰式。奥斗志雄代表取締役（左）と受賞者の本田初枝さん

本田さんは次のようにも話してくれた。「ベルはぬくもりを感じる会社で、私たちスタッフを大切にしてくれます。元気なうちは続けたいと思いますが、傍からみてどうなのかが気になりますので、山崎マネージャーにときどき、確認します。『大丈夫』、『しんどくなってきたら日にちを半分にすることもできます』ともいっていただいて、安心しました。いまはまず75歳までがんばろう、と思っています」

ビルメン事業部　加藤矢志リーダー

功績をたたえて全社で共有

同社では、本社スタッフとクリーンキーパーとのコミュニケーションを大切にして、本社スタッフが定期的に現場を巡回し、クリーンキーパーに声をかけて意思の疎通を図り、相談や問題などがあれば解決へと導いている。

巡回時によい点をみつけて、その場で伝えることもあり、クリーンキーパーの活躍や顧客からほめられた事例を社内で常日ごろから共有する。またそうした事例から、「社長賞」を贈ることもある。年1回の表彰とは異なり、顧客からの言葉や日ごろの働きぶりから、奥社長が判断した人に贈るもので、最近では、仕事先のトイレを清掃後、いつも一輪の花を飾っていたクリーンキーパーに贈られた。

「自分の仕事が認められたと感じられる賞なので、この賞もやりがいになっていると思います」と山崎マネージャー。また、永年勤続（10年目から5年ごと）者には、奥社長との食事会に参加する機会に恵まれる「社長と飲み会賞」が贈られる。

同社では毎月社内報を発行し、毎年の表彰結果や「社長賞」を贈られたスタッフの功績と受賞者の言葉、お祝いのメッセージなどを掲載して本社・現場スタッフの全員に周知している。

加えて、クリーンキーパーの誕生日には本社スタッフと社長から、その人のために考えたお祝いの言葉を手づくりのカードに添えてプレゼントとともに郵送する取組みも続けている。

2017年の受賞者の写真と表彰楯に書かれた言葉を社内に掲示

ほめて、互いを思いやり、大切にする

同社では、技術的な研修などと同様に、こうした取組みもいっさい手を抜かずに行い、本社スタッフの人材教育においても「ほめる」ことを重視し、互いに関心を持ち、思いやり、認め合う企業文化の醸成に注力している。表彰制度もその1つである。

こうした取組みによるいちばんの効果は、従業員やクリーンキーパーの成長であり、成長を通じてそれぞれのモチベーションが高まり、仕事に反映され、顧客満足、働きがいアップにつながる好循環を生み出していることである。

また、表彰についてクリーンキーパーから寄せられる声には、「会社が自分たちの働きぶりをきちんとみてくれていることがうれしい」という内容が多く、山崎マネージャーは、「そのような声を聞き、今後もみなさんの働きぶりをきちんとみていかなくては、と気を引き締めています」と表彰制度の効果は、贈られるほうにも贈るほうにもあると話した。

山崎マネージャーは、「当社は、採用にあたって仕事体験をしてもらい、厳しい目で評価をして採用を決めるのですが、採用後は家族を思うのと同じ気持ちで従業員を大切にします。クリーンキーパーさんには高齢の人が増えていますが、活躍できる人にはなるべく長く、無理なく続けられるように一人ひとりと向き合い、その人に適した働き方ができるようにこれからもサポートしていきたいです」と語った。